

第51回 舞踊批評家協会賞

2019年度



舞 踊 批 評 家 協 会

Dance Critics Society of Japan

第51回(2019年度)舞踊批評家協会賞

2019年1月1日から12月31日までに
日本国内で公演された舞踊活動を対象として会員が選考しました。

(五十音順)

◆尾上 墨雪 殿

【授賞理由】

新作『白峰西行』において、簡潔な中に、深みと強度のある「素踊り」を提示した、その成果に対して

◆大駱駝艦 殿

【授賞理由】

文学・演劇・舞踊に通じた磨赤兒率いる大駱駝艦19人のメンバーが『のたれ●』の舞台で托鉢をしながら自在の俳句に生きた山頭火の境地と重ねて感銘を与えた舞台の成果に対して

◆能藤 玲子 殿

【授賞理由】

『風に聴く』の舞台で、優れた舞踊芸術を、同時代の彫刻の名作との共同作業から完成させ、北海道芸術史に大きな地平と到達点を拓いた成果に対して

新人賞

◆藤間 蘭翔 殿

【授賞理由】

第1回東京公演「蘭翔の会」での『梅の春』『積恋雪関扉』の洗練された演技に対して

◆井澤 駿 殿

【授賞理由】

逞しく安定感のある身体によりクラシック・バレエからコンテンポラリー・ダンスまで優れた表現力を見せた舞踊活動の成果に対して

◆菊地 びよ 殿

【授賞理由】

身一つで土とともに踊るという、踊りの始原と本質を強く感じさせる『空の根』の舞台の成果に対して

特別賞

◆慶應義塾大学・アート・センター・土方巽アーカイヴ 殿

【授賞理由】

1998年から「土方巽アーカイヴ」が設立され、土方巽関連の膨大な諸資料が公開され、世界の多くの研究者が利用して、舞踏の国際性に寄与してきた成果に対して

藤間 蘭翔

新人賞

第1回東京公演「蘭翔の会」での『梅の春』『積恋雪関扉』(下)の洗練された演技に対して



写真撮影：Tomohiko Tagawa

横溝 幸子

札幌から本格的に東京に進出した第一回東京公演「蘭翔の会」(2019年10月16日 国立劇場小劇場)は、品格が感じられる雰囲気の良い会であった。小学4年生の頃から代地の藤間蘭景に師事してきた行儀の良さが舞台にも反映している。

清元「梅の春」はご祝儀物の素踊りの代表曲の一つ。前半はゆったりと、後半は曲調が変わり江戸の風景となり、隅田川の流れや吉原の賑いが目に浮かぶような情緒があった。平成29年度日本舞踊協会新春舞踊大会で大会賞を受賞している自信のほどがうかがえた。

常磐津「積恋雪関扉」は、通称「関の扉」と呼ばれ

る。蘭景師匠の舞台を見ていつかは踊りたいと憧れていた作品と聞く。藤間蘭黄の関兵衛を相手に傾城墨染の姿で廓話もあてやか。夫の片袖を見つけてから小町桜の精へと変わるが、上半身の衣裳が前後に割れる“ぶっかえり”も鮮やかに、見事な立回りを見せた。

札幌出身で東京芸術大学邦楽科日本舞踊専攻。東京と札幌で日本舞踊教室を開き、後進の指導に当たる。蘭黄の海外公演に同行し、ウクライナ、フランス、ドイツでも踊りを披露した。ロシア公演では蘭黄の助手をつとめるなど海外でも羽ばたいている。今後の活躍が最も期待される日本舞踊家である。